

**本日2月3日(火) 節分会(豆まき)をしました！**

日本のステキな伝統をいねいに子ども達に伝えていきましょう！

早いもので本日は「節分」です。「節分」とは季節の変わり目で、立春・立夏・立秋・立冬の前日のことです。曆の上では4日が立春で、いよいよ自然界では大地も含めて温かな春へと動き出していくこととなります。昔から季節の分かれ目には、「体調がおかしくなったり、バランスが崩れ、事故やケガ」になってしまうと恐れられてきました。その災いの原因としては「心にゆるみが出て、その隙間に悪い鬼が現れて暴れている」からだといわれ、鬼の一番嫌いな豆を投げて追い払うことによって、心や体が安定するとされてきたのが「節分に豆まきをする」と伝えられ、季節の行事として続けられて来ています。



**「こどものもり」の節分には鬼が出てきません。**

他の園やテレビ等では「節分」には子どもたちは鬼のお面を作り、誰かが鬼の衣装を着て金棒を持って暴れて出てきたのを、子どもたちがキャーキャーと興奮して豆を投げあったり、逃げる鬼を見て喜んでいる場面をよく見ますが……、

「こどものもり」の節分では単に「面白おかしく豆投げゲーム」をするのではなく、「節分」の本来の意味を伝えていきます。「心の中の良くない鬼(わがまま・好き嫌い・泣き虫・いじわる・うそつき・欲張り・乱暴な言葉使い等)を追い払い「心も体もすてきな子になる」ために「まめをまく」として行っています。



こどものもりでは・・・何日も前から「節分にちなんだお話や紙芝居」をみて、造形コーナーでは子どもたちが園長先生が着る「袴(かみしも)」を作り準備しました。本日、園の家長としての園長がそれを着て、木の枡ますを持ち、ちゅうりっぷ組の部屋から子どもたちと一緒に「ふくは～うち」「オニは～そと」と言いながら各お部屋を順にまわって豆をまきました。園庭や各コーナーで遊んでいた子たちもだんだんその声に集まってきて、最後に太陽の部屋にまき、全員が年令ごとの旗のまわりに集まりました。

**特別の豆を食べて心の中のよくない気持ちを追い払いました！**

太陽の部屋で「今日は特別の豆を用意してあります。この豆を心を込めて、丁寧に食べるとどの子も良い子になれますよ!」と園長先生。「良い子になりたい人?」と聞くと、どの子もみんな「は～い!」と元気よく手を上げました。1才の子から順に年の数だけ一粒ずつ「良い子になりますようにおねがいします!」と願いを込めて食べました。「豆を食べてよい子になった人!」と聞くと、どの子もみんな「は～い!」と元気よく手をあげました。どの子もみんなニコニコ笑顔で心のすてきなよい子になりました。この一年がどのご家庭も災いや病気にならず、明るく笑顔の毎日でありますようにお祈りいたします!日本の季節を大切にしてきた伝統的な行事の一つですので、各ご家庭でも本日は丁寧にご家族で「まめまき」をしていただければと思います。



◎「豆と柊(ヒイラギ)とイワシの頭」について・・・鬼の一番嫌いなものを家の玄関に飾り追い払うため。「豆」はお腹の毒素を出す、「ヒイラギ」のとがった葉が「鬼の目をつぶす」、「イワシの頭」(腐ったにおいは鬼が嫌う)とされています。(本日、園の正門に説明付で飾りました。)



**えほうまき**

**恵方巻を作って食べ、今年も元気で、<sup>えほう</sup>良い子が育っていきます!ご家庭でも本日の夕食にどうぞ!**

『恵方巻』のいわれは節分の夜にその年の恵方(今年は南南東)に向かって目を閉じて一言もしゃべらず、願い事を思い浮かべながら太巻きを丸かじりするのが習わしとされています。



中身は「七福神」に因み、福を食べる」という意味があるそうです。会終了後年令別に集まり、祥世先生とお手伝いに来てくださった塚田先生が子ども達の前で作ってくださり、みんなで味わいました。

